

平成 29 年度医療的ケア児に関する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携促進に関する研究
厚生労働科学研究費補助金(障害者政策菅生研究事業)

分担研究報告書 平成 29 年度

医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究

分担研究課題(5):「訪問看護を利用している小児の実数調査」

研究分担者 : 大田 えりか (聖路加国際大学大学院看護学研究科学国際看護学)

研究協力者 : 沢口 恵 (聖路加国際大学大学院看護学研究科小児看護学)

研究協力者 : 山路 野百合 (聖路加国際大学大学院看護学研究科国際看護学)

分担研究者 : 清崎由美子 (全国訪問看護事業協会)

【研究要旨】

医療的ケアに依存しながら生活している小児(以下、医療的ケア児)は増加傾向にあるが、医療的ケア児数や必要な医療的ケアの内容は明らかになっていない。医療的ケア児数の把握と必要な支援への示唆を得るため、訪問看護事業所 4,972 ヶ所に FAX によるアンケート調査を行った。返信数は 2,023 ヶ所(回収率 40.7%)であり、小児の訪問看護を実施している事業所数は 882 ヶ所(43.6%)であった。小児の訪問看護利用者数は 4,272 名で、そのうち医療的ケアが必要な小児は 3,094 名(72.4%)、医療的ケアが必要のない小児は 1,178 名(27.6%)であった。医療的ケアが必要な小児について運動機能別にみると、運動機能が座位までの小児は 2,751 名、歩行可能な小児は 343 名であった。利用者の年齢でみると、6-12 歳、3-6 歳、1-3 歳の順で多かった。都道府県別にみると、神奈川県、東京都、大阪府、愛知県、福岡県で多く、都市部に集中していた。医療的ケアの内容は、経管栄養、吸引、気管切開の順で多かった。学齢期・幼児期の小児の利用者数が多いことから、地域や学校との連携方法の確立や、育児支援を含めた小児訪問看護の充実が求められる。

A. 研究目的

在宅に移行する医療的ケア児は増加傾向にあるが、医療的ケア児の実数や必要な医療的ケアの内容について明らかになっておらず、医療・福祉・教育の連携のあり方や医療的ケア児にとって必要な社会資源の内容や支援方法が見出せない現状にある。高度な医療的ケアが必要な小児の場合、在宅移行後に訪問看護を利用するケースが多いことから、訪問看護事業所に対して小児の訪問看護利用者数を調査することで、医療的ケア児の数と必要な医療的ケアの内容を明らかにし、今後の医療的ケア児に必要な支援の示唆を得ることを目的とした。

B. 研究方法

全国訪問看護事業協会の会員である訪問看護事業所に FAX にてアンケート用紙を送付し、訪問看護を利用している小児の実数を把握する。質問項目は、小児、成人を含む訪問看護利用者数、医療的ケア児の年齢別の数と医療的ケアの内容である。データ分析は、調査項目ごとに単純集計を行った。

(倫理面への配慮)

アンケート用紙には訪問看護事業所の事業所番号は質問項目に入れないなど、個人が特定されないよう配慮した。訪問看護事業所には、研究の参加は自由意思

とし、質問紙に解答しなくても不利益はないこと、データは研究目的以外に使用しないことを書面で説明した。同意が得られた場合のみ返信をお願いし、返信をもって研究協力の同意とした。

聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

2016年度訪問看護事業所数¹⁾9,070ヶ所のうち、訪問看護事業に関する団体に加盟している全国の訪問看護事業所4,972ヶ所に送信した。返信数は2,023ヶ所（回収率40.7%）であった。

1. 小児の訪問看護を実施している事業所数と所在地

2,023ヶ所の訪問看護事業所のうち、小児の訪問看護を実施している事業所は882ヶ所（43.4%）、実施していない事業所は1,141ヶ所（56.6%）であった。

表1 小児の訪問看護の実施の有無

	事業所数(%)
実施している	882(43.6%)
実施していない	1141(56.4%)
合計	2023

2. 小児の訪問看護利用者数

小児の訪問看護利用者数は4,272名であった。

医療的ケアの有無でみると、医療的ケアが必要な小児の利用者数は3,094名（72.4%）、医療的ケアが必要のない小児の利用者数は1,178名（27.6%）であった（表2）。

表2 小児の訪問看護利用者数

医療的ケアの必要性	利用者数(%)
医療的ケアが必要な小児	3094(72.4%)
医療的ケアが必要のない小児	1178(27.6%)
合計	4272(100%)

医療的ケアが必要な小児について運動機能別にみると、運動機能が座位までの小児は2,751名（88.9%）、歩行可能な小児は343名（11.1%）であった（表3）。

表3 運動機能別医療的ケアが必要な小児の訪問看護利用者数

運動機能	利用者数(%)
座位まで	2751(88.9%)
歩行可能	343(11.1%)
合計	3094(100%)

小児の訪問看護利用者数を年齢別にみると、6-12歳未満1,075名と多く、3-6歳未満949名、1-3歳未満900名、12-15歳未満466名の順であった（表4）。医療的ケアが必要な小児については、6-12歳未満785名、3-6歳未満713名、1-3歳未満674名、0-1歳未満318名の順であった。医療的ケアが必要のない小児については、6-12歳未満290名、3-6歳未満236名、1-3歳未満226名、12-15歳未満153名の順であった。

表4 年齢別小児の訪問看護利用者数

年齢	医療的ケアが必要な小児の数	医療的ケアが必要のない小児の数	合計
0-1歳未満	318	142	460
1-3歳未満	674	226	900
3-6歳未満	713	236	949
6-12歳未満	785	290	1075
12-15歳未満	313	153	466
15-18歳未満	291	131	422
合計	3094	1178	4272

3. 都道府県別医療的ケアが必要な小児の訪問看護利用者数

医療的ケアが必要な小児の数を都道府県別にみると、神奈川県301名、東京都272名、大阪府221名、愛知県202名、福岡県165名であり、都市部に集中していた（図1）。

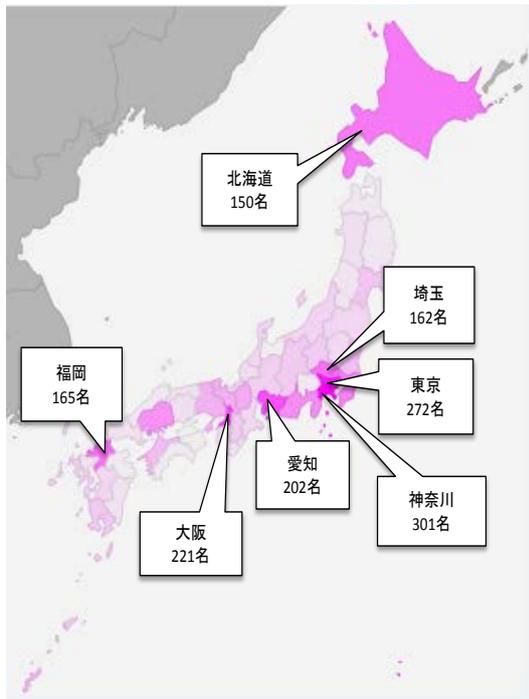


図1 都道府県別医療的ケアが必要な小児の訪問看護利用者数

4. 実施している医療的ケアの内容

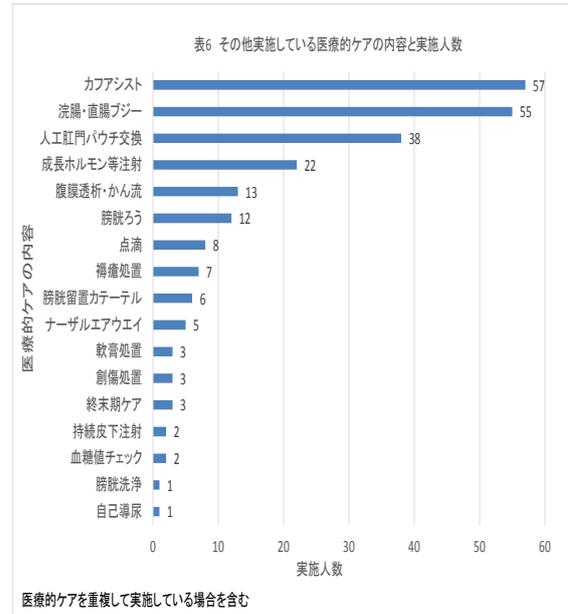
医療的ケアの内容は、経管栄養、吸引、気管切開、在宅酸素療法、人工呼吸器の順で多かった。運動機能別でみると、運動機能が座位までの小児については全体と同じであるが、歩行可能の小児については、気管切開、在宅酸素、吸引と呼吸管理が必要な小児が多かった（表5）。

表5 運動機能別、実施している医療的ケアの内容と実施人数

運動機能	実施している医療的ケアの内容									
	経管栄養	気管切開	人工呼吸器	在宅酸素	吸引	ネブライザー 等吸入	中心静脈 栄養	導尿	インスリン 注射	その他
座位まで	2129	1273	1058	1214	1882	926	45	177	13	247
歩行可能	102	126	47	122	120	73	22	16	7	75
合計	2231	1399	1105	1336	2002	999	67	193	20	322

医療的ケアを重複して実施している場合も含む

その他の医療的ケアの内容をみると、カフアシストが最も多く、次に浣腸、人工肛門パウチ交換など排泄介助が多かった（表6）。



D. 考察

今回のアンケート調査で返信があった訪問看護事業所は2,023ヶ所であり、そのうち小児の訪問看護利用者数は4,272名であり、そのうち医療的ケアが必要な小児は3,094名（72.4%）、医療的ケアが必要のない小児は1,178名（27.6%）であった。小児の利用理由については、1-3歳未満、3-6歳未満はNICUから在宅移行後の成長・発達のフォローアップが考えられ、訪問看護での育児支援の必要性が求められていると考える。

医療的ケアが必要な小児の年齢は、全体として6-12歳の学齢期の小児が多い結果であった。この結果は自宅だけでなく特別支援学校や普通学校でも継続して医療的ケアを実施している小児が多いことを示している。学齢期の小児への支援として医療的ケアを実施するだけでなく、訪問看護事業所と学校と連携して体調管理を行うことで、学校生活の充実に結びつくのではないかと考える。公立特別支援学校や公立小・中学校に配置されている看護師数は増えている²⁾ 現状にあるが、スムーズな学校への移行や自

宅と学校との切れ目のない支援を行うためには、訪問看護事業所と学校との連携方法の確立が必要であろう。

今回のアンケート調査では、FAX送信する質問紙の送信枚数や紙幅の制限により、医療的ケアが必要のない小児へ提供している看護の内容について質問することができず、利用理由や具体的な看護の内容を把握することはできなかった。今後は医療的ケアが必要のない小児の訪問看護の利用理由や提供している看護の内容について調査を行い、小児の訪問看護のサービス内容の検討や研修内容への応用を検討していく必要がある。

参考文献

- 1) 平成28年度全国訪問看護事業協会訪問看護ステーション数調査
<https://www.zenhokan.or.jp/new/basic.html>

2) 文部科学省平成28年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査の結果について

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/okubetu/material/1383567.htm

E. 健康危険情報

本研究はアンケート調査のため健康危険情報はなし

F. 研究発表

1. 論文発表 日本在宅ケア学会への投稿を予定している。
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

医療的ケア児の訪問看護ステーション利用に関する実態調査アンケート

1. 事業所について、2016年12月の実績を記入してください。

所在地	都道府県名：
-----	--------

2) 2016年1月1日から12月31日の期間で小児の訪問看護を実施していますか

○1：実施している	○2：実施していない
-----------	------------

3. 小児（18歳以下）の訪問看護を実施している事業者の方へ、2016年1月から12月までに実施した小児の訪問看護について、

医療的ケアが必要で運動機能が寝たきりから座位までの小児、医療的ケアが必要で運動機能は歩行可能で知的障害のない小児、医療的ケアが必要のない小児、に分けて、

年齢と医療的ケアの内容について、医療保険の請求の有無に関わらず記入をお願いします。

*年齢については2016年12月時点での年齢で記入してください。

*いない場合は「0」と記入してください。

*医療的ケアについては重複してもかまいません。

*表に記載された医療的ケア以外のもの（例えば腹膜透析など）についてはその他に記入してください。

●医療的ケアが必要で、かつ運動機能が寝たきりから座位までの小児

	実人数	経管栄養	気管切開	人工呼吸器	在宅酸素	吸引	ネブライザー等吸入	中心静脈栄養	導尿	インスリン注射	その他
0ヶ月～1歳未満	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
1歳～3歳未満	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
3歳～6歳 (就学前)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
6歳～12歳 (小学生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
12歳～15歳 (中学生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
15歳～18歳 (高校生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名

●医療的ケアが必要で、かつ運動機能が歩行可能で知的障害のない小児

	実人数	経管栄養	気管切開	人工呼吸器	在宅酸素	吸引	ネブライザー等吸入	中心静脈栄養	導尿	インスリン注射	その他
0ヶ月～1歳未満	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
1歳～3歳未満	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
3歳～6歳 (就学前)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
6歳～12歳 (小学生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
12歳～15歳 (中学生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名
15歳～18歳 (高校生)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	内容 名

●医療的ケアが必要のない小児

年齢	0ヶ月～1歳未満	1歳～3歳未満	3歳～6歳 (就学前)	6歳～12歳 (小学生)	12歳～15歳 (中学生)	15歳～18歳 (高校生)
実人数	名	名	名	名	名	名